

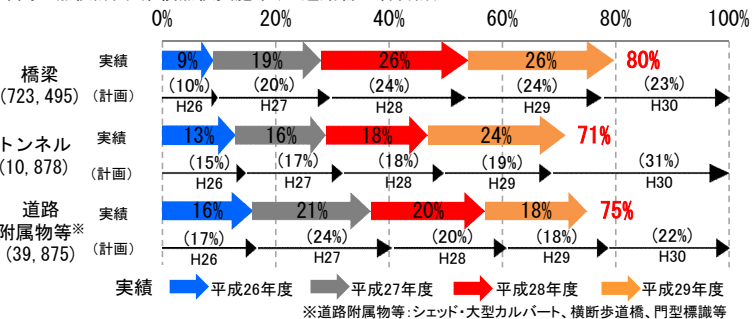
- 平成26年7月より、道路管理者は、全ての橋梁、トンネル等について、5年に1度、近接目視で点検を行い、点検結果として健全性を4段階に診断することとしています。
- 上記点検は着実に進捗しており、一巡目の最終年となる平成30年度に全ての橋梁、トンネル等の点検を実施する予定です。この他、国土交通省においては舗装の健全性を判定する点検を、平成29年度から5年に1回の頻度で実施しています。
- 地方公共団体管理施設における点検後の修繕着手率は、国土交通省管理施設の修繕着手率に比べ低い状況にあります。

点検実施状況と点検結果(平成26~29年度累計)

累積点検実施率及び点検結果(全体)

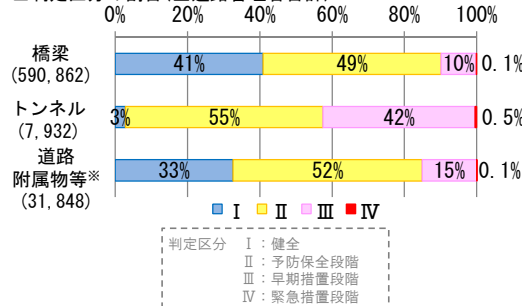
○ 平成26~29年度の累積点検実施率は、橋梁約80%、トンネル約71%、道路附属物等約75%となっています。

■ 5年間の点検計画・累積点検実施率(全道路管理者合計)



○ 判定区分Ⅲ、Ⅳの割合は、橋梁で約10%、トンネルで約43%、道路附属物で約15%となっています。

■ 判定区分の割合(全道路管理者合計)

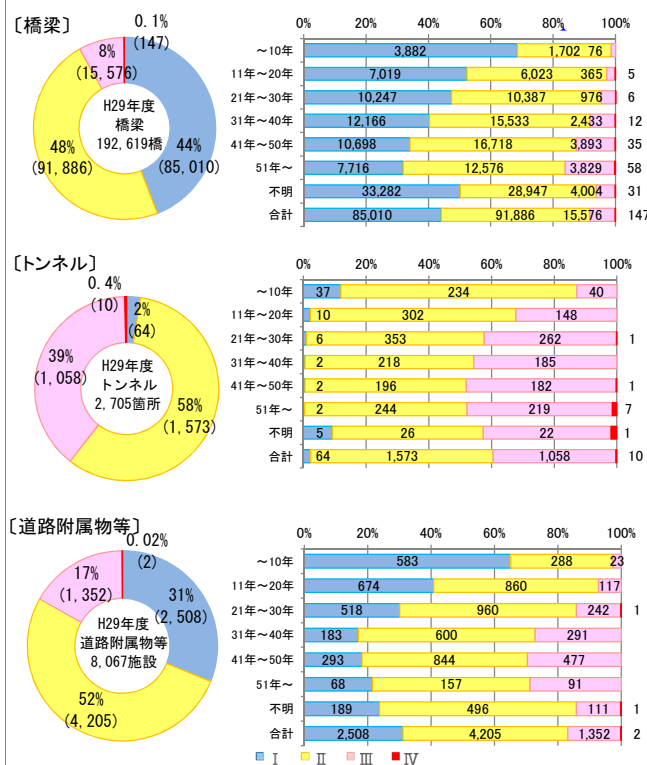


点検結果(平成29年度)

点検結果(全体)

○ 建設経過年数が長くなるほど、早期に修繕などの措置が必要な施設の割合が多くなっています。

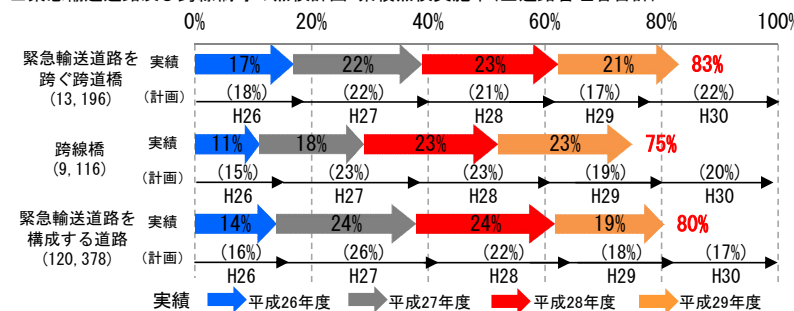
■ 判定区分と建設経過年数(全道路管理者合計)



累積点検実施率及び点検結果(緊急輸送道路及び跨線橋等)

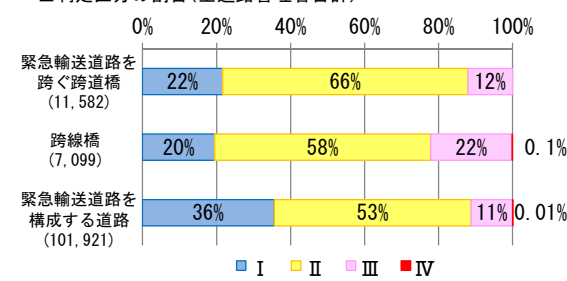
○ 平成26~29年度の累積点検実施率は、緊急輸送道路を跨ぐ跨道橋約83%、跨線橋約75%、緊急輸送道路を構成する橋梁約80%となっています。

■ 緊急輸送道路及び跨線橋等の点検計画・累積点検実施率(全道路管理者合計)



○ 判定区分Ⅲ、Ⅳの割合は、緊急輸送道路を跨ぐ跨道橋で約12%、跨線橋で約22%、緊急輸送道路を構成する橋梁で約11%となっています。

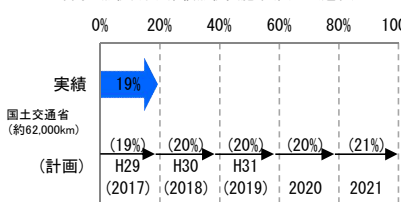
■ 判定区分の割合(全道路管理者合計)



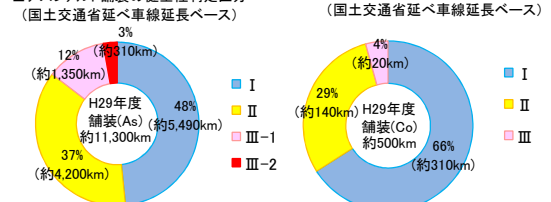
【参考】舗装点検

○ 平成29年度より5年に1回の頻度で目視を基本とする点検を実施しており、直轄国道の実施率は約19%となっています。

■ 5年間の点検計画・累積点検実施率(国土交通省)



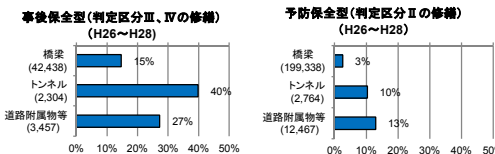
■ アスファルト舗装の健全性判定区分(国土交通省延べ車線延長ベース)



【参考】修繕・措置の状況(平成26~28年度点検施設)

○ 事後保全型の修繕に比べ、予防保全型の修繕は進んでいない状況です。

○ 国土交通省の管理する橋梁では、事後保全型の修繕に62%着手していますが、都道府県政令市及び市町村における事後保全型の修繕は9~13%と低い状況です。



■ Ⅲ・Ⅳ判定の橋梁における点検年次別修繕着手率

